

志木二中だより

令和元年度 7月号
志木市立志木第二中学校

令和元年7月1日(月)
志木市館1-3-1 TEL 048-473-2379



言葉の重み

校長 本 荘 真

5月24日の朝日新聞「天声人語」に興味深いコラムが載っていました。『あなたなら、どちらの言葉が心に響くだろうか。A「ウソをつかないで」、B「ウソつきにならないで」。心理学の実験をしたところAはウソが減る効果がほとんどなかったが、Bは激減したという。行動より人格のことを言われた方が身が引き締まるようだ。』

脳研究者の池谷裕二さんの本からの抜粋です。その他の応用例では『「裏切らないで」より「裏切り者にならないで」。「私の状況を理解して」より「私の良い理解者になって」』いかがでしょうか。いずれも前者は「ウソをつかれた」「裏切られた」「状況を理解していない」という非難めいた印象にも取れます。言葉の使い方というのは難しいですね。

我々教職員は、日常頻繁に生徒と会話をしています。言葉のやり取りをしています。その時々で十分に中身を吟味して、言葉がけができているかというところはどうなのでしょう。教育者として、そうでなければいけないのですが。私自身の経験では、いくつもの失敗をしています。あの時のあの一言はもっと言い方があったなあ、と後悔の念に苛まれます。実際に卒業してから会った教え子に「あの時の先生の一言が・・・」と言われたことが何度かあります。悪い場面だけでなく良い場面もありますが、どちらもこちらは覚えていない場合があります。申し訳なくります。

親としても、我が子にどんな言葉での働きかけができたのか、振り返ってみると有効な言葉をかけられたという自信はありません。散らかしていれば「片づけなさい」であり、「整理整頓できる人になってもらいたい」とは言っていません。「あいさつしなさい」であり、「あいさつのできる人になってほしい」とも言っていません。なかなか起きてこない我が子に「きちんと早起きできる人になってほしいなあ」なんて悠長なことは言っていられませんね。私は、学校という一つの社会の中で、「言葉の重み」を大事にしていきたいと思えます。「口は禍(わざわい)の元」と言います。誰かのちょっとした何気ない一言で傷ついたり落ち込んだりします。相手をハッピーにする言葉がけをしたいものです。

学校総合体育大会朝霞地区予選が終わりました。本校の運動部は今回も大いに躍動しておりました。上位になりこのあと県大会に進む団体、個人がたくさんあります。また、上位進出はならなくとも精一杯がんばったチームや選手をたくさん応援することができました。特に3年生はこれで一区切りとなります。「よくがんばった、おつかれさま」とみんなに声をかけたい気持ちです。2年生、1年生は先輩の残してくれた財産を受け継ぎ繋げていってください。

